

天塩町

鈴木 清夏

1. 天塩町の概要と歴史

1.1 概要

天塩町の「テシオ」は、アイヌ語の「テシュ」が変化したものといわれる。「テシュ」には、ヤナ（水中に木・竹・杭等を並べ水流を堰き止め、魚を捕獲する仕掛けのこと）の意味が含まれているといわれる。

町の花はハマナス、町の木はエゾヤマザクラ、町の鳥はコガラである。

1.2 地理

天塩町は北海道西北部天塩郡の中央にあり、一級河川天塩川を境として、北東は幌延町、南東は中川町、南は遠別町に接し、西は日本海に面している。東西 24.85km、南北 25.64km、行政面積 353.48km²を有している。

天塩町の東端は東経 142 度 01 分 55 秒、西端は東経 141 度 43 分 05 秒、南端は北緯 44 度 45 分 39 秒、北端は北緯 44 度 59 分 29 秒である。

天塩町へのアクセスは、自動車・バスを利用すると札幌から 4 時間 30 分、旭川から 3 時間 30 分～4 時間、稚内から 1 時間 15 分程度。

図 1 北海道内における天塩町の位置



出典：天塩町 HP

図2 留萌管内における天塩町の位置



出典：留萌支庁 HP

1.3 土地について

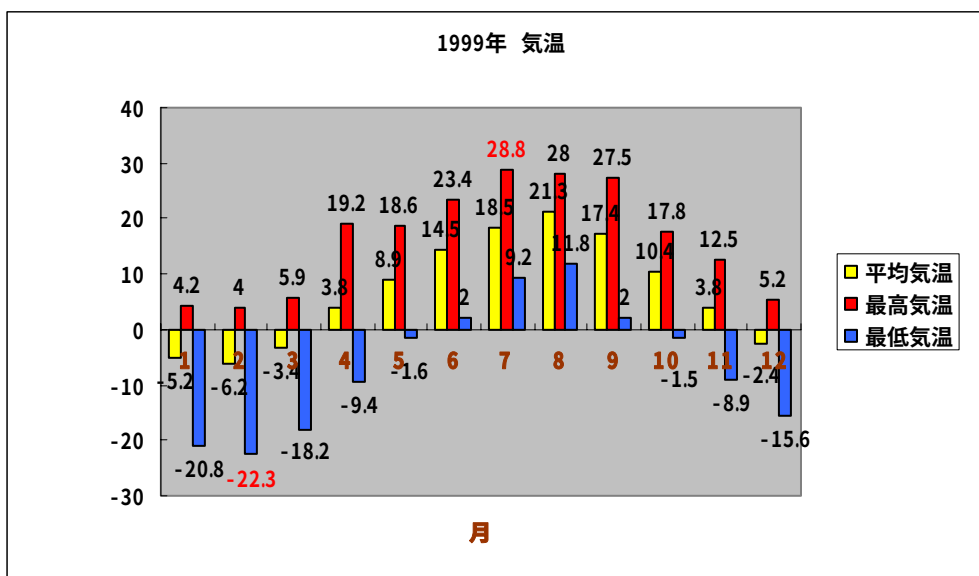
留萌管内北部に位置する天塩町の耕地土壌は、天塩川流域や宗谷管内に続く広大なサロベツ原野に分布する泥炭土で大部分を占められている。この土壌は透水性や排水性などに問題があり、改良の必要性があるといわれている。

総面積 353.48 km²の土地の利用の様子は、山林（195.75 km²）と畑（108.4 km²）で4分の3以上を占めており、その他は原野、牧草地、宅地などに利用されている。

1.4 気象

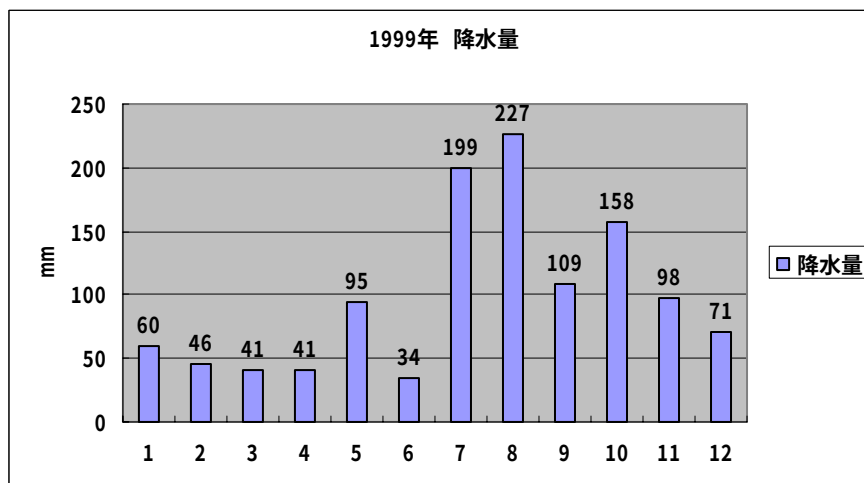
留萌管内は、日本海を北上する対馬海流の影響により、同緯度の他の地域に比べて温暖だが、南部に細長い地域のため、南部と北部では気温がかなり異なる。北部に位置する天塩町は夏が冷涼である。年平均気温で見ると、北部は5～6℃（1999年の天塩町の年平均気温は6.78℃）、中部は6～7℃、南部は7～8℃である。このことが、留萌管内の様々な農業形態を生む要因となっており、北部の天塩町は酪農が盛んなのである。

図 3 1999 年気温



出典：留萌支庁 HP

図 4 1999 年降水量



出典：留萌支庁 HP

1.5 歴史

天塩岳を源とし、日本海に注ぐ天塩川の河口に位置する天塩町は、遠くシベリア・沿海州にまでつらなる太古からの歴史を持っている。明治 2 年北海道開拓使の設置とともに水戸藩の支配となる。明治 13 年に天塩村が誕生。明治 15 年に開拓使の廃止に伴い札幌県の管轄となった。そして明治 18 年には苫前村戸長役場の管轄となる。明治 20 年代には天塩

国諸原野の植民地選定により開拓が始まり、天塩川河口で木材輸出が開始した。明治 30 年代には本州各地からの移民が開拓の鋤を入れることで天塩町が形成されていった。明治 29 年、天塩村戸長役場を設置。明治末から大正にかけて木材景気により町は急激に人口が増え、大正 4 年に二級町村制を施行、村名を天塩村とする。大正 13 年に一級町村制を施行と同時に町制施行。こうして大正 13 年には天塩町へと成長を遂げた。

天塩町は北海道開拓史以前から舟の往来が多いところであった。江戸期には「テシホ場所」として交易や漁業が繰り広げられ、当時の天塩川河口を 800～900 石積の舟が行き交い栄えていた。開墾を繰り返し、次第に町としての機能を形成。大正期における木材景気により町は一気に人口を増やし、市街地がにぎわい、商工業の発展に大きな影響を与えた。

2 天塩町の産業

2.1 産業の概要

現在の天塩町の産業は、天塩川と日本海、大地に支えられた酪農と漁業を柱に発展している。また、商工業、林業においても、関係機関や観光産業などのさまざまな分野との連携を図りながら、工夫や努力を重ね、生産性の向上に努めている。

2.2 漁業

天塩町の漁業は、日本海と天塩川の豊かな漁場に支えられてきた。江戸期の漁業の中心はニシン漁、サケ漁で、初期の発展に大きな役割を果たしてきた。しかし、ニシン漁の後退とともに「獲る漁業」から、沿岸・内水面を拠点とした「育てる漁業」への転換が課題となり、着実に育てる漁業への移行が図られた。そして、漁業造成や計画的な施設整備などの取り組みが進められたことにより、天塩川本流・支流やパンケ沼などでシジミ漁が盛んになった。鮮緑色に包まれた天塩独特のシジミは高級品として珍重されている逸品で、蝦夷の三絶（厚岸の牡蠣、十勝川のフナ、天塩のシジミ）とまでうたわれた。

現在では、天塩のシジミは漁獲量 300 トンを誇り、漁獲量全道一、天塩の名産となった。そのほか、ホッキ貝桁網漁業、サケ定置網漁業、さらには沿岸でのカレイ・カスベなどの刺網漁業なども大きな伸びを示し、より付加価値の高い海産品の生産に向けて努力が続けられている。

こうした流れを踏まえながら、漁業は天塩町を支える主要産業として、一層の安定経営を確立するために、計画的な漁業対策、後継者育成事業などが進められている。

表 1 漁種別生産高(1998 年、t、千円)

漁業			
	品目	数 量	金 額
魚類	魚類総数	629	199,939
	サケ	299	64,785
	ヒラメ	43	49,832
	カレイ類	161	64,653
	その他魚類	122	19,324
水産動物	水産動物総数	78	25,979
	たこ	78	25,979
貝類	貝類総数	117	48,324
	ホタテ貝	10	2,100
	ホッキ貝	106	46,113

出典：留萌支庁 HP

2.3 農業

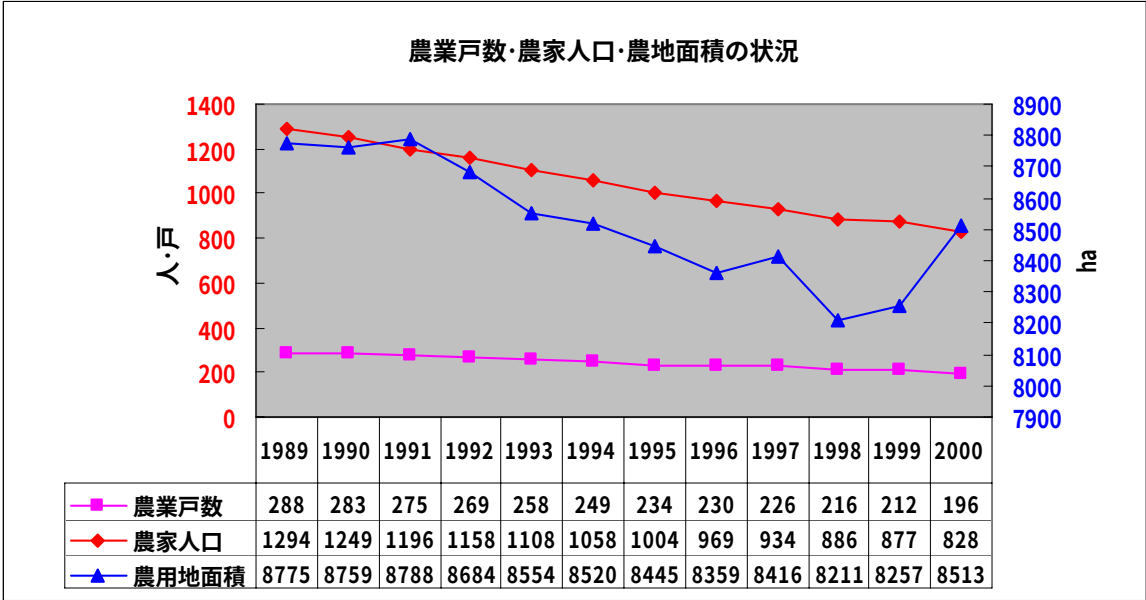
農業もまた、漁業と並ぶ主要産業のひとつである。天塩町の農業は、天塩川流域の肥沃な土地の上で取り組まれている。その中心となるのは専門化された大規模酪農だ。明治末から大正にかけて始められた畜産・酪農は、昭和 32 年の産業振興 5 ヶ年計画、35 年の酪農振興計画などを契機として、町の発展を担う基幹産業の一つとして歩み続けてきた。経営の大型化や近代化、大規模草地改良事業などを柱とした取り組みの中で、乳牛は約 15000 頭、牛乳生産量も約 56000 トンに達するまでに成長した。こうして天塩町は、道北圏の専門酪農地域として「北海道の酪農王国」と称されるようになった。

近年では、生産調整や貿易自由化など農業をとりまく国際的な環境が大きく動いており、そうした変化を踏まえながら、優良牛導入、良質乳生産出荷奨励補助、経営の合理化・近代化・後継者対策などに努めながら経営体質の強化と安定化を図り、新たな時代にふさわしい酪農郷づくりを進めている。また、休む間もなく働き続ける酪農家のひとときの休日と、余暇の充実を図るためヘルパー制度、後継者対策ばかりではなく、農業実習生や新規酪農者を受け入れるシステムづくりが積極的に進められている。

天塩町で栽培されている主な農作物は青刈りとうもろこし、大根、馬鈴薯など。しかし、気候が冷涼であり、土壌に問題があるなどの原因により、果樹・稲作・畑作などはあまり盛んではないといえる。農業の中心はやはり酪農で、その中でも乳用牛が約 90%を占めている。乳用牛の飼育は近年減少傾向にあり、かつて 15000 頭以上飼育されていた乳用牛も、2000 年には 13129 頭にまで減少した。

農業戸数は横ばい気味で、比較的緩やかに減少しているが、農家人口は年々減少傾向にある。そのような中、農用地面積は近年増加しつつあり、経営規模の拡大が行われるという動きが見られる。

図 5 農業個数、農家人口、及び農地面積の状況



出典：天塩町 HP

3 天塩町の人びと

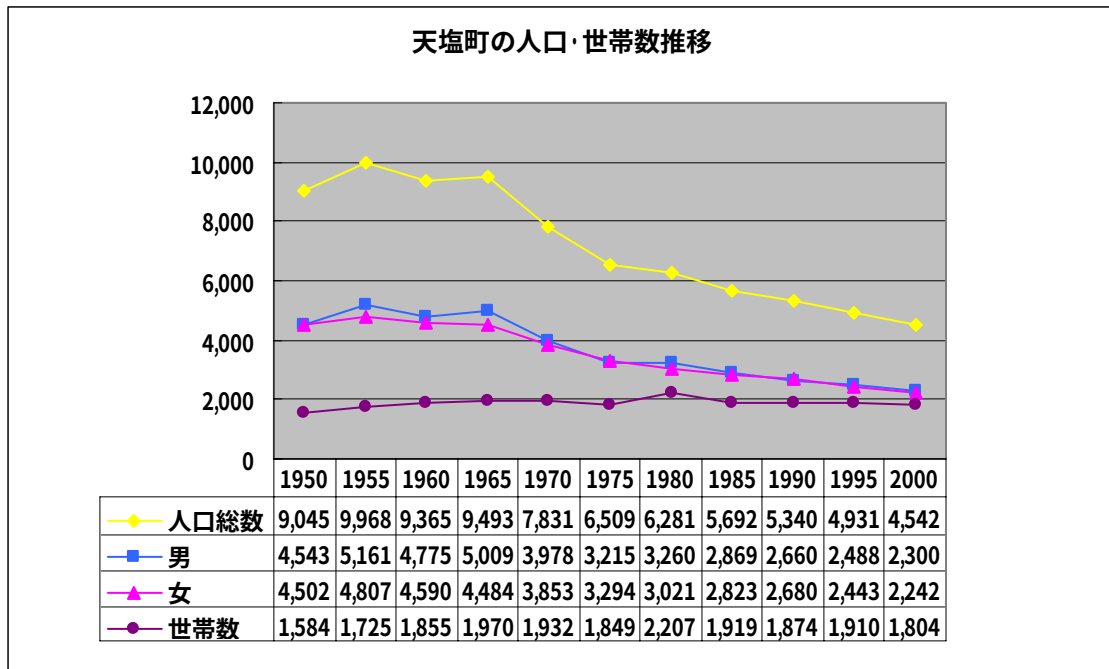
3.1 人口・世帯数推移

1945 年から 2000 年までの天塩町の人口・世帯数のグラフを示す。グラフが示すように、1970 年以降、天塩町の人口は減少しつづけている。しかし一方で、世帯数には大きな変化が見られない。

人口減少の要因は、農業・漁業・鉱業の低迷によるもので、若年層を中心とする人口の流出により過疎化と高齢化の進展が著しい。天塩町を含む留萌管内の全市町村が、過疎地域の指定を受けている。

2005 年 12 月末現在の天塩町の人口は、3961 人（男性 1963 人 女性 1998 人）、世帯数は 1692 世帯である。

図6 天塩町の人口・世帯数グラフ



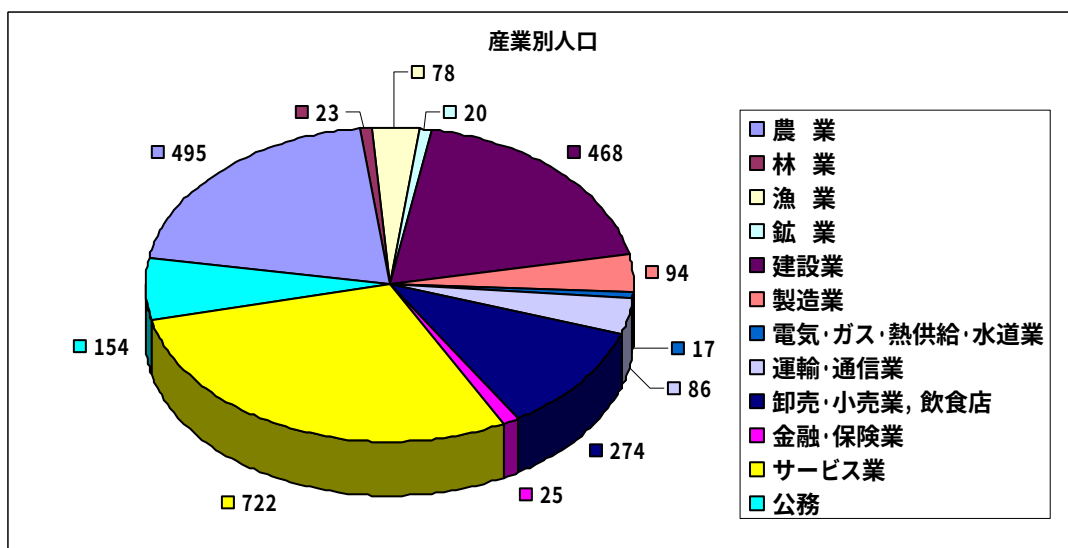
出典：留萌支庁 HP

3.2 産業別人口

天塩町の基幹産業は農林水産業であるが、農業の近代化による省力化や、漁業経営の不振などから第一次産業の就労者が減少した。その結果、第三次産業の従事者の割合が増えている。

図7 産業別人口

※総数は 2456 人



出典：留萌支庁 HP

4. 観光について

4.1 観光

天塩町の観光入込み客数は、1997 年 135.6 千人、1998 年 144.2 千人、1999 年 145.1 千人となっている。天塩町のイベントには、次のようなものがある。

・「鏡沼しじみまつり」(7 月)

全国でも珍しい本格的な体験型の観光イベント。何といても一番人気は、鏡沼を埋め尽くすほどの人出で沸きに沸くしじみ貝のつかみ取りである。さらに、しじみ貝やホッキ貝の即売会、アドベンチャーゲーム、歌謡ショーなど、多彩なイベントが繰り広げられる。味覚の目玉はアツアツのしじみ汁。会場となる鏡沼海浜公園には、近隣市町村はもとより道内各地から観光客が集まるため、例年まちの人口の 4 倍もの人でにぎわう。

図 8 「鏡沼しじみまつり」のしじみ汁



出典：天塩町 HP

・「日本海オロロンライン トライアスロン国際大会」(8 月)

244.7kmの日本最長コースを 14 時間以内で競う国際イベント。管内 9 市町村を舞台に繰り広げられる。日本最長の距離を、水泳、自転車、マラソンと種目を変えながら挑んでいく。名前の通り鉄人的な過酷な競技で、400 人以上のアスリートが挑む。天塩町は自転車の通過コースとなっている。

その他、赤レンガまつり、巖島神社祭、てしお川港まつり、てしお秋の味まつりなど、魅力あるイベントが数多くある。また、名所には、「天塩川歴史資料館」、「川口遺跡風景林」、「松浦武四郎銅像」がある。レジャー施設には「干拓町営牧場」、「町民スキー場」、「オートキャンプ場」などがある。また、温泉施設として、「てしお温泉夕映」がある。

参照ホームページ

- ・天塩町ホームページ <http://www.teshiotown.com/>
- ・留萌支庁ホームページ <http://www.rumoi.pref.hokkaido.jp/index.htm>
- ・天塩商工会青年部 <http://www.hpmix.com/home/sijimi/>
- ・Matsu's 北海道情報 <http://www2.ocn.ne.jp/~abstract/index.html>